

(全社標準)



初版：2000 年 08 月 04 日

改版：2019 年 01 月 21 日

環境影響管理規定

第 7 版

総務部

承認	確認	作成
		

NO	99-0201-07
頁	1/3

環境影響管理規定

1.目的

本規定は、株式会社シーアイエス（以下、当社という）の事業活動における環境影響を評価し、著しい環境側面を抽出する手順について定める。

2.適用範囲

当社における事業活動全般に適用する。

3.役割と責任

総務、製造、資材、輸出管理、品質保証の各責任者は、本規定に従い環境に大きな影響を与えるもの及び影響を及ぼす事のできる環境側面の抽出を行う。

管理責任者は、各部署の責任者がまとめた分析・評価結果をもとに、重要度が高く、かつ当社が管理できるものを特定し、これを承認する。

4.環境側面の評価方法

評価は、以下の（1）から（4）に配慮する。

- （1）環境方針に関わるもの
- （2）法的要求事項に関わるもの
- （3）有害/有益を問わず、設備・場所・活動・製品及びサービスから発生する顕著なもの
- （4）状況：定常時（操業中/停止中）、非定常時（フロア移動を含む引っ越し、増改築など）、緊急事態発生時

以下に示す、ワークシートを利用した「プロセス分析」、及び資源の消費量と廃棄物量をみる「インプット・アウトプットの分析」にて抽出する。

4.1 プロセス分析

各部署は「プロセス分析ワークシート」を用い、業務内容を細分化し、環境側面を抽出してスコアを算出する。

4.2 インプット・アウトプット分析

総務部は、資源の消費量と廃棄物の実績を「INPUT/OUTPUT 総使用量」にまとめる。これは、各部署単位でのスコアが低くても全社的に関わるものについては、総使用量としてまとめ、プロセス分析との併用により、抽出もれを防ぐためである。

5 プロセス分析の手順

環境影響評価（プロセス分析）ワークシートに従い、下記項目の記載を行う。

NO	99-0201-07
頁	2/3

5.1 業務分類

- (1) 大分類：部、課、係名などに区分けする。
- (2) 中分類：業務内容
- (3) 小分類：業務に使用する設備や活動内容と、その際の消費/廃棄物

5.2 環境影響分析

5.1 で分類した項目が、どのような環境影響とリスクを持つかを判断して評価（スコア算出）する。

5.2.1 環境影響要素

公害や地球環境、職場環境との関わりについて、該当するかどうかを判断する（○をつける）

5.2.2 影響区分

影響の度合いについて、評価する。（○をつける）

5.2.3 関連法規・法令、利害関係

関係するものがあれば、記載する。

【関連記録】法的要求事項一覧表（E00004）

5.2.4 リスク評価

付表 1「評価区分の基準点」に基づきスコア換算する。

- (1) 発生の可能性：発生頻度の評価
- (2) 発見の可能性：管理の程度、状態を評価
- (3) 結果の重大性：質と量で評価
- (4) 環境影響区分：直接及び間接の環境影響への関与を評価する
- (5) スコア算出：（発生の可能性＋発見の可能性）X 結果・被害の重大性（量＋質）

X 環境影響区分

6.インプット・アウトプットの手順

総務部は、年度毎（9 月から）に下記項目の投入/排出量の実績を「INPUT/OUTPUT 総使用量」の一覧に記録する。

6.1 インプット

<項目>

- (1) 電気、水道、ガス、ガソリン
- (2) コピー用紙
- (3) 副資材（溶剤系）

<担当部署>

総務
総務、資材、製造、品質保証
製造

NO	99-0201-07
頁	3/3

6.2 アウトプット

- | | |
|--------------------|----|
| (1) 廃棄物 | 総務 |
| (2) リサイクル物（段ボールなど） | 総務 |

7. 著しい環境側面の抽出と登録

管理責任者は、上記の分析（a）でスコア上位にあるものと、分析（b）の結果を考慮しながら、当社の著しい環境側面を抽出して「環境側面登録簿」に登録する。

- （1）プロセス分析ワークシートの全社結果を主要な項目に大別してスコアにまとめる。
- （2）INPUT・OUTPUT 総使用量一覧で使用量を確認する。
- （3）両分析結果を比較・考慮して全社的にスコアの高い項目、かつ当社が管理できる数項目を抽出し、「環境側面登録簿」に登録する。
- （4）全社的にはスコア上位にないが、各部内で上位にある、もしくは法規制に関わる環境側面は、それぞれの部で配慮し、年次行動計画へ反映する。

8・環境側面の見直し

以下の状況時には事前に見直しを行う

- （1）事業活動を新規に開始または大幅に変更するとき
- （2）法規法令、規制、条例、協定、その他合意事項が新規に制定され、または改正される時
- （3）設備、施設、場所の新設または大幅な変更があるとき

上記に該当する確認内容は、総務部が発行する環境月報の中に記載する・

9. 記録

- （1）環境影響評価（プロセス分析）ワークシート(E0001)
- （2）INPUT/OUTPUT 総使用量(E0002)
- （3）環境側面登録簿（E0003）

付表1:評価区分の基準点

NO 99-0201-07

評価式 リスクスコア=(A+B)×(D+E)×F

発生の可能性=(A)

1	非常に低い	発生する可能性は低い又は使用しない
2	低い	毎年定期的に発生する又は使用する
3	中程度	毎月定期的に発生する又は使用する
4	高い	毎週定期的に発生する又は使用する
5	非常に高い	毎日発生する又は使用する

OUTPUT系/INPUT系

特別な場合以外では発生の可能性が低い
故意・事故時では発生する可能性がある/社内で改善の要求が出ている
異常時など発生の可能性はある/社内の規則・規制がある
操作ミス・訓練不足等で発生する可能性がある/近い将来法規制が発生する
通常時に発生する・過去に発生したことがある/法規制がある 顧客より環境に関する要求がある

発見の可能性=(B)

1	非常に高い	環境側面事項が把握され管理の方法が決められており、実施している。
2	高い	---
3	中程度	環境側面事項は把握されているが管理の方法が定められていない。
4	低い	---
5	非常に低い	環境側面事項が把握されず管理されていない。

結果・被害の重大性=(C)

2	軽微
4	小さい
6	中程度
8	大きい
10	極めて大きい

←

量=(D)	程度	比率
1	少量	5%未満
3	中程度	5～30%未満
5	大量	30%以上

+

質=(E)	廃棄物	分類
1	リサイクル	リサイクル/リユース/リデュース
3	廃棄物	一般廃棄物/産業廃棄物
5	廃棄物	特別産業廃棄物

+

地球温暖化係数	程度
1	少量
3	中程度
5	大量

環境影響区分=(F)

影響区分	環境影響への関与	解釈	基準点
直接影響	直接管理できる	自らが直接行う事業活動やサービス	1
間接影響	相手に影響力を行使できる	自らの事業活動で、第三者に直接依頼発注又は共同して行う事業活動	1
	相手に影響力を行使できない	自らの事業活動でなく、要望、アドバイスなどにより、啓発推進する事業活動。	0.5

NO	99-0201-XX
頁	改訂履歴

改訂履歴

No	頁	変更箇所、理由、内容		承認	確認	確認	確認	作成
	全	<ul style="list-style-type: none">環境側面の見直しに伴い、参考資料添付を2000年度版に変更。 00.09評価基準の結果・被害の重大性の質の評価に、地球温暖化係数を加える。 01.11 <p>(上記は転記した)</p> <ul style="list-style-type: none">ISO9001 文書管理規定の共用化による、登録番号、表紙及び改訂履歴表の変更 01→02 版 (No EMP-0001-XX→99-0201-XX)	改訂 02.11.05					芳 02.11.-5 賀
		定期レビュー済 変更なし	改訂 03.7.31	飯 03.7.31 田				芳 03.7.31 賀
		定期レビュー済 変更なし	改訂 04.7.23	飯 04.7.23 田				芳 04.7.23 賀
△		<ul style="list-style-type: none">4項1)変更5.3項3)変更5.4項4),5)変更P58 評価区分の基準変更	改訂 05.7.29	飯 05.7.29 田				芳 05.7.29 賀
		定期レビュー済 変更なし	改訂 06.7.26	飯 06.7.26 田				芳 06.7.26 賀
		定期レビュー済 変更なし	改訂 07.7.11	飯 07.7.25 田				芳 07.7.11 賀
								12.8.03 飯 アイエス




NO	99-0201-XX
頁	改訂履歴

NO	99-0201-XX
頁	改訂履歴

改訂履歴

No	頁	変更箇所、理由、内容		承認	確認	確認	確認	作成
		定期レビュー済 変更なし	改訂 '08/07/28					
	1/5 全 3/5 4/5	3項 管理部総務係長 → 製品環境品質管理課課長 4項 現組織図部門に合せて 5-11項 現組織に合せて修正 6項 現組織名称に変更 8,9項 総務係長→品質管理部	改訂 02→03版 2009.8.28					
Δ1	3/5	6.1項 1) CCDカメラ製品 → カメラ等の製品						
Δ2	1/5 2/5 3/5	4.1)項 部門名称変更 5.1.2)項 ② 開発技術の 記述変更 ④ 生管を購買に統合 車輦燃燃料の消費を総務 に変更	2011.7.6					
Δ3	1/5 2 4/5	部署名変更	改訂 2012. 7.26					
			改訂					

変更履歴

版	対象頁	変更箇所、理由、内容 等	変更日		作成
3		定期レビュー済。 変更箇所なし	2013.7.10	表紙にて 捺印	
		定期レビュー済。 変更箇所なし	2014.6.30		
4		<ul style="list-style-type: none"> ・ 6 修正：項目と担当部署名の修正 ・ 7 削除：フロー図(マニュアルに重複) ・ 10 削除：旧資料につき参考資料削除 	2014.12.10	表紙にて 捺印	
5	5.1 7 8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中/小分類の内容を分けて修正 ・ (4)を追加(各部固有の側面へ配慮) ・ 見直し時期の記述修正(事前確認) ・ 見直しの記録に関する追記 	2015.12.15	表紙にて 捺印	澤海
6		<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織変更による修正 製造管理→資材 	2016.11.24	表紙にて 捺印	

變更履歷表

[illegible]